

3. 3 多摩川

3. 3. 1 概要

多摩川は、山梨県笠取山を源流とし、山梨県、東京都、神奈川県を流れる全長 138km、流域面積 1,240km²の一級河川である。多摩川では、大量の土砂採取などにより、扇状地特有の平坦な川から複断面的な河道へとランドスケープが変化し、それに伴う洪水頻度の低下による礫河原の減少などの変化が明らかにされている。また、近年、その場のハビタット保全だけでなく、周辺環境との生態的連続性（エコロジカルネットワーク）が重要視されており、河川の場合は、縦（海と河川）や横（河川と水田水路など）のつながりに留意する必要があると考えられる⁸⁰⁾。

3. 3. 2 指標種の選定

多摩川における生物の生態と生息・生育環境の特徴を踏まえ、大まかな環境類型区分を設定するとともに、この区分に対応する指標種の選定を行った。表-3.3.2.1 に、設定した環境類型区分と、候補とした指標種について示した。

表-3.3.2.1 多摩川において設定した環境類型区分と候補とした指標種

環境類型区分	指標種	指標種と環境類型区分との関係
海との生態的つながり	モクズガニ	モクズガニは通し回遊種であり、成体が生息する場所(河川域)は繁殖を行う場所(汽水・海域)とつながっている必要がある。また、アユのように放流が盛んではないため、本種の生息は河川と海との連続性を反映していると考えられる。
河口干潟	チゴガニ	チゴガニは河川下流域の泥底干潟部に生息する代表的な動物であり、河口付近の水辺移行帯を反映する種と考えられる。
下流域の周辺水域とのつながりをもつ止水域	メダカ	メダカは河川の止水域や水たまり、水田とその小水路、浅い池沼などに生育しており、河川下流域の環境を反映する種と考えられる。
上流域の冷水性環境	ホトケドジョウ	ホトケドジョウは冷水性で湧水のあるような環境に生息する代表的な生物であり、河川上流域を反映する種と考えられる。
上流域	ヤマメ	ヤマメは、河川上流に生息する代表的な冷水性魚類であり、河川上流域の環境条件を反映する種と考えられる。
中流域	カジカ	カジカは、河川中流域に生息する代表的な底生魚であり、河川中流域の環境条件を反映する種と考えられる。
下流域	マハゼ	マハゼは、河川下流域～河口部に生息する代表的な底生魚であり、河川下流域～河口部の環境条件を反映する種と考えられる。

※メダカ、ホトケドジョウ、ヤマメ、カジカ、マハゼについては、生息状況との関係を充分検討できる環境因子情報および実測データに乏しいため、候補種から除外した。